

あと4年で百周年

総務部長 加藤了嗣



独立行政法人となってもうすぐ6か月、最初の年も折り返しのところに来ました。関係機関の皆様に対しましては、設立当初に挨拶状を差し上げたのみで、森林総合研究所がどう変わったのか、どうしようとしているのか、といったことについてはまだ十分ご紹介できていないように思います。

このため、できるだけ早期に新生森林総合研究所を知っていただくための機会を持ちたいと考えていましたが、このたび遅蒔きながら、独立行政法人森林総合研究所の設立記念式典を開催させていただくことになりました。10月17日、当研究所の研究成果発表会終了後、石垣記念ホールにおいて広く関係者の皆様に法人設立のご挨拶を申し上げ、独立行政法人森林総合研究所に課せられた使命達成のため、忌憚のないご意見、ご指導を賜りたいと考えています。

さて、当研究所は、4年後に創立百周年を迎えます。松下幸之助氏はその著書「社員心得帖」の中で、「私たちが日本人として、この日本の国において生きていくについては、やはり、日本の歴史、伝統というものを知ることが大切だと思います。日本という国がどのようにして建国され、どういう過程を経て今日に至っているかという歴史を知ってはじめて、そこに今日の日本人としてどう生きるべきか、また日本を将来どういう国にしていったらいいかといったことも、よりよく考えられると思うのです。それは会社の場合でも同じことです。」と述べ、会社の歴史を知ることの大切さを強調しています。このことは、森林総合研究所にも当てはまると思います。

当研究所は、明治38年（1905年）11月1日の農商務省山林局林業試験所の発足をもって創立の日としていますが、その前身は内務省時代の明治11年に設置された西ヶ原の樹木試験場であり、内外樹木の適否試験を行っていたとあります。それ以降、世の中の移り変わりとともに歴史的な変遷を重ねてきたところですが、今日までの貴重な経験や教訓は、現在の森林総合研究所に課せられた多くの課題を解決していく上で、多くの示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

独立行政法人への移行、創立百周年の到来と大きな節目を迎えていますが、慌ただしさの中にも森林総合研究所の来し方行く末に思いを馳せることも必要かと考えます。来るべき創立百周年の記念日は、森林総合研究所の新たな展開を図るための絶好の機会と位置付け、意義のある記念日となるよう考えていきたいものです。

[巻頭言] [[リサーチトピックス](#)] [[シリーズ1](#)] [[シリーズ2](#)] [[シリーズ3](#)] [[おしらせ](#)]
[[所報トップページ](#)]